

平成 28 年 度

「経営発達支援計画」事業実施報告書

(事業の実績・評価・見直し結果)

益子町商工会

概 要

本報告書は、経営発達支援計画に基づき、益子町商工会が平成28年度に実施した事業の実績、評価及び見直し結果等についてまとめたものである。

国に提出するほか、当商工会のホームページに掲載し、地域の小規模事業者が閲覧できるようにしている。

なお、評価及び見直しにあたっては、「益子町商工会経営発達支援計画検討委員会」を組織して、外部有識者等を活用し、公平かつ幅広い意見を取り入れて審議を行った。

益子町商工会経営発達支援計画検討委員会

■ 目 的

経営発達支援計画の年度目標(P)に対する実績(D)の報告を受け、目標達成事業の効果、未達成事業の理由や原因について評価・検証(C)し、推進方法等の見直し(A)を審議する。審議結果を商工会の理事会等へ報告し、次年度以降の事業に反映させていく。PDCAサイクルを有効に回すことで、計画の実効性を高める。

■ 組 織（委員名簿）

No.	役 名	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
1	委 員 長	柴田 幸紀	株式会社ネオクラシック代表取締役 中小企業診断士
2	副委員長	高濱 文男	益子町観光商工課長
3	委 員	長谷川 敬	栃木県商工会連合会
4	委 員		
5	委 員		

■ 会議開催状況

日時：平成29年3月10日（金）15：00～17：00

場所：益子町商工会 会議室

1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

経営発達支援事業の目標達成に向け、「地域の消費者及び小規模事業者の経済動向実態を把握すること」を目的に、各種調査を活用した地域の経済動向に関する情報の収集・整理・分析及び提供を行う。

「地域と事業者の現状と地域の課題の“見える化”」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 地域経済動向調査

平成28年度（業務委託契約平成28年8月）経営発達支援計画の目標達成に向け「地域の消費者及び小規模事業者の経済動向実態を把握すること」を目的に地域内の事業者の課題抽出するため動向調査を実施した。益子町商工会が委託した専門家（株）ネオクラシックにより益子町の人口動態、益子町経済概要、益子町第1次産業～3次産業の動向等を調査した。

② 地域経済動向調査（秋の陶器市における経済波及効果）

益子町最大のイベントとして年2回開催される「秋の陶器市（他春に1回）における経済波及効果及び観光客の実態」を11月3日、商工会職員が調査員となりアンケート用紙にチェックする方式で観光客を対象に実施（アンケート回収数95票、有効回答数95票）益子町における地場産業益子焼の経済波及効果及び観光にきている旅行者の実態など調査分析することにより今後の事業展開に有益となる情報を提供するための基礎資料づくりを目的とする。

(2) 今年度の目標及び実績等

項目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）		目標	実績	達成率
① 会報送付回数			1回	2回	200.0%
② ホームページ更新回数			1回	5回	500.0%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかというところ	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

経済動向調査の資料を作成したことで、職員の巡回時のツールとして活用、指導の幅が広がった。また、持続化補助金申請における経営計画作成に役立った。秋の陶器市における経済動向調査は、観光客を対象に益子焼の経済波及効果及び旅行者の実態等把握できた。直接効果5億6286万、間接効果2億9329万、経済波及効果8億5615万で、投資効果は主催者投資の260倍と経済的意義は非常に大きい。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかというところ	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
○	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input checked="" type="checkbox"/> その他

事業の必要性、妥当性について問題は無く、成果物としての地域経済動向調査報告書も職員の巡回ツールや持続化補助金の経営計画作成に役立つものと思われる。今後はより広く情報開示するための工夫及び、その成果を定量的に把握することが必要と思われる。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
A

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 会報送付回数	1 回	±0 回
② ホームページ更新回数	2 回	+1 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し(改善等)

今後は調査報告書等を商工会ホームページに掲載してあるが、そのことを会報等で広く告知した方がよい。又、ホームページにアクセスカウンター機能を付加する等して、成果を定量的に測れる様すべき。

2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記1. 地域の経済動向調査を踏まえ、「個々の事業者の経営課題を抽出し、事業計画策定の方向性、必要となる需要動向情報の種類・開拓方法を見極めること」を目的に、巡回、窓口相談、各種セミナーの開催、専門家派遣事業等の活用により、販売する商品・サービス(技術)の内容、保有する技術・ノウハウ、従業員等の経営資源、財務、その他の経営状況の分析を行う。分析結果により抽出された課題については、その解決に向けた事業計画の策定支援へと繋げる。

小規模事業者に寄り添い、目線を合わせることで、「課題の深化と本質を見極める」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 経営分析対象者の掘り起こし

小規模事業者を対象に事業計画・経営分析セミナー開催通知と共に巡回時に開催趣旨、販路支援や持続化補助金等の利用に有効である旨を説明、会員企業の受講者を募り、事業計画や経営分析の必要性を促す

② 経営分析

事業名:「経営分析セミナー」日時8月26日14:30~17:00、場所:益子町商工会館、講師:中小企業診断士・MBA取得・柴田幸紀氏、参加者:15企業、内容:新規顧客の獲得や販路開拓を実施する際に必要な知識を習得、また地域経済動向調査等のデータをもとに経営分析し経営課題を抽出、持続化補助金利用や新規販路開拓や需要開拓に活かす事業計画策定に結びつける。

(2) 今年度の目標及び実績等

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 経営分析対象者掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数	210 回	231 回	110.0%
② 経営分析に係る巡回訪問延べ回数	42 回	54 回	128.6%
③ 経営分析に係る講習会・セミナー受講者数	3 者	15 者	500.0%
④ 経営分析事業者数 ☆	21 者	22 者	104.8%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらか	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

全会員に通知、飲食店、益子焼関係業者等を中心に巡回、参加を促す。特に開催時間は、飲食業者に配慮し昼食時間後で、夕飯仕込み前に終了時間を設定。特に持続化補助金に有効に利用でき参加者の中から補助金申請が数名あった。自社商品アンケート調査を実施した企業もあった。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に適切か？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある	今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
必要性							<input type="checkbox"/> 拡 充 <input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 内容見直し <input type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
妥当性							<input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 廃止休止 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他
有効性							<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他
効率性							

持続化補助金、需要開拓事業（陶〜く得キャンペーン）に繋がる経営分析セミナーとして開催され、目標に対する実績の達成率も良く問題ないと思われる。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
A

- A：目標を達成することができた。（100%以上）
 B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）
 C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）
 D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）	29年度	今年度比
① 経営分析対象者掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数		210 回	±0 回
② 経営分析に係る巡回訪問延べ回数		42 回	±0 回
③ 経営分析に係る講習会・セミナー受講者数		3 者	±0 者
④ 経営分析事業者数 ☆		21 者	±0 者

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

事業の実施方法等については現状通りで問題ないが、来年度持続化補助金が有るか分からない為、伴走型小規模事業者支援推進事業で実施予定のギフトショー出展事業に繋がるような形で実施しては。

3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記2. 経営状況の分析結果、及び下記5. 需要動向調査に基づき、「個々の事業者が経営課題を解決し、需要を見据えた事業計画を策定すること」を目的に、巡回や講習会等を通じて、計画策定の指導・助言を、栃木県、近隣の商工会等とも連携し行う。

また、創業・第二創業（経営革新）者には、目指す方向性を確認し、計画策定の指導・助言を行う。

小規模事業者に寄り添い、事業者に“気づき”を与えることで、「計画の実効性を高める」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

- ① 「事業名：事業計画策定セミナー」、日時9月16日 14:30～17:00、場所：益子町商工会館
 講師：中小企業診断士・MBA、柴田幸紀氏、対象者：商工会員（小規模事業者）、参加者：11企業
 内容：持続化補助金等の申請に係る経営計画書の作成及びブラッシュアップ。参加者はほとんど経営計画を作成したことがないため、今回のセミナーにより、自らの事業の再認識と今後の見通しについて明確になった。

- ② 創業者、創業希望者4件が相談、商工会の支援を受け経営上の売れ筋、店舗レイアウト、税務手続きや記帳の仕方をはじめ経営のあり方、当店の強みや特徴などをもとに目指す方向性を確認して経営計画等を作成するよう助言。

(2) 今年度の目標及び実績等

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 計画策定支援に係る巡回訪問延べ回数	42回	42回	100.0%
② 計画策定支援に係る講習会・セミナーの受講者数	3人	11人	366.7%
③ 計画策定支援に係る窓口利用延べ回数	6回	12回	200.0%
④ 事業計画策定事業者数 (見直しを行った者も含む) ☆	27者	26者	96.3%
⑤ 創業支援者数	3者	4者	133.3%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

経営計画の策定支援を行い、それを基にした持続化補助金の申請や企業としての経営計画を作る重要性を参加者の声から感じ取れた。参加者以外の会員に対しては特に若手の経営者に巡回や青年部を通じ、参加者を増やすために動機づけやPRが必要と思われる。創業支援は、町創業者支援資金の窓口となっており、4名の相談者があり、そのうち商工会員として2名が加入した。他に2名の主婦層の創業相談があったが、創業には結びつかない事案であった。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性 (5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる)

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

事業内容の必要性、実施方法等問題は無い。創業支援者の掘り起しについては益子町地域雇用創造協議会や起業支援補助金制度等とより連携を深めていくべき。

(5) P D C A評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判定

A

A : 目標を達成することができた。(100%以上)

B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)

C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)

D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 計画策定支援に係る巡回訪問延べ回数	42回	±0回
② 計画策定支援に係る講習会・セミナーの受講者数	3者	±0者
③ 計画策定支援に係る窓口利用延べ回数	6回	±0回
④ 事業計画策定事業者数 (見直しを行った者も含む) ☆	27者	±0者
⑤ 創業支援者数	3者	±0者

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

経営分析支援同様、事業計画策定支援についても来年度持続化補助金があるか分からない為、伴走型小規模事業者支援推進事業で実施予定のギフトショー出展事業に繋がるような形で実施すべき。また、実績の更なる上積みの為に経営支援員の協力を増やすべき。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記3. 事業計画策定支援を行った事業者に対し、「事業計画に従って行われる事業が、確実に実施され、課題が解決されること」を目的に、“伴走型”の指導・助言を関係機関とも連携して行う。
小規模事業者に寄り添い、継続して支援することで、「計画の（修正・見直し対応も含めて）実効性を高める」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 伴走型小規模事業者支援推進事業

経営分析・事業計画を踏まえ各セミナーの分析・事業計画実践者には、需要を伴う販路支援や持続化補助金の応募を勧め、申請書の作成支援、申請者に寄り添う形の支援を随時実施。販路支援は、陶器市期間を含む約2か月間（10月8日～11月27日）実施した陶〜く得キャンペーンのチラシを作成・PR、参加加盟店の特長や新商品情報、店舗情報を掲載支援した。

② その他経営改善普及事業

日時：平成28年4月～、指導員等の巡回・窓口相談によるもの（随時実施）、場所：適宜、対象者：小規模事業者・経営計画策定事業者22社、内容：経営計画を行った小規模事業者に対し、半期に一度の訪問を行い進捗状況や提案、経営支援を行った。

(2) 今年度の目標及び実績等

項目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）	目標	実績	達成率
① 実施支援に係る巡回訪問延べ回数		108回	124回	114.8%
② 実施支援に係る支援策の周知・提案件数		27回	34回	125.9%
③ 実施支援事業者数		27者	32者	118.5%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

経営分析・経営計画セミナーを開催し実践企業には、経営指導員が分担して国の補助金申請作成、一連作業を相談しながら申請、アフターフォローしながら完遂できたと思われる。事業計画の基、需要開拓支援事業としての実施を支援。秋の陶器市には約20万人の観光客が来町するためにこれらの観光客に対する参加店、事業者のPRや新商品情報を掲載支援。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
拡充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し <input type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
縮小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他
○ 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他

事業計画策定者に持続化補助金や需要開拓支援事業にてフォローしており、目標に対する実績も問題無い。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
A

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 実施支援に係る巡回訪問延べ回数	108 回	±0 回
② 実施支援に係る支援策の周知・提案件数	27 回	±0 回
③ 実施支援事業者数	27 者	±0 者

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し(改善等)

巡回等でのアフターフォローを更にきめ細かく実施してほしい。

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記2. 経営状況の分析を行った事業者に対して、経営分析で把握した事業者の販売する商品・サービス(技術)の需要動向に関する情報について、「将来性判断に有効かつ最新の情報として提供すること」を目的に調査・収集、整理及び分析し、上記3. 事業計画策定支援時、又は、上記4. 事業計画策定後の実施支援に係る巡回訪問時や窓口相談時に提供する。

小規模事業者に寄り添い、情報を噛み砕いて分かりやすく提供することで、「的確な経営判断を行う」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① アンケート調査

益子焼および当該地域の飲食店における消費者の消費動向の実態や意識に関する調査

実施日 : 平成28年9月1日(木)~9月30日(金)

実施方法 : 益子町商工会窯業部会が企画した「陶〜く得キャンペーン」の当選者86名に対し、本調査の調査票を郵送した。(郵送返信型の調査)

有効回答票数 : 39票

【内容】

本調査は、経営発達支援計画における需要動向調査として実施し、益子町の地場産業である益子焼および当該地域にある飲食店に関する消費者の消費動向の実態や意識などを調査分析することにより、当商工会地域の事業者に対し、今後の事業展開に有益となる情報を提供するための基礎資料作りを目的として実施した。

② 需要経済動向調査

実施日 : 平成28年10月
 委託先 : (株)ネオクラシック

【内容】

需要動向調査では大きく分けて、業種ごとの「市場動向」と「顧客ニーズ」の2つのパートで構成され「市場動向」を知ることで今後の大まかな経営方針を立てる際の指針とし、「顧客ニーズ」を知ることでより店舗、事業所の強化すべき部分を把握するよう活用する目的で作成した。

(2) 今年度の目標及び実績等

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 巡回訪問による調査分析実施回数a	12 回	15 回	125.0%
② アンケートによる調査分析実施回数b	7 回	2 回	28.6%
③ テストマーケティングによる調査分析実施回数c	2 回	0 回	0.0%
④ 当商工会以外の機関が実施する調査による調査分析実施回数d	6 回	6 回	100.0%
⑤ 実施支援に係る情報提供回数e	27 回	32 回	118.5%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

需要動向では、陶〜く得キャンペーン当選者を対象に実施、益子焼に対するお客様の消費動向及び飲食店に関する消費動向調査結果を基に飲食店、益子焼販売店、益子焼製造業者へ巡回の際に情報提供をすることができ、事業計画、持続化補助金申請等に活用した。その他の業種に対しては需要経済動向調査の各業種データを用いて巡回指導、持続化補助金申請に役立てた。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？ 妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
 有効性：成果は上がっているか？効果は？ 効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性 (5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる)

<input type="checkbox"/>	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

需要経済動向調査については各業種毎のデータが巡回ツールとして有効。「陶〜く得キャンペーン」のアンケート調査についてはサンプル数をもっと増やせないか実施方法について検討すべきでは。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
- B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)
- C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)
- D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 巡回訪問による調査分析実施回数a	12 回	±0 回
② アンケートによる調査分析実施回数b	8 回	+ 1 回
③ テストマーケティングによる調査分析実施回数c	4 回	+ 2 回
④ 当商工会以外の機関が実施する調査による調査分析実施回数d	6 回	±0 回
⑤ 実施支援に係る情報提供回数e	27 回	±0 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

需要動向調査について「ギフトショー」での来場者アンケートを実施しては。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記3. 事業計画策定支援を行った事業者（ピンポイントで販路開拓を目指す事業者を含む）に対し、上記5. 需要動向調査で得られた情報に基づき、上記4. 事業計画策定後の実施支援の一環として「課題の解決」を目的に実施する。

小規模事業者が苦手とし、手が回らない広報活動や、展示会等の開催等、ITの活用等、需要の開拓に寄与する事業を行う。

小規模事業者に寄り添い、売上げに直結する“具体的な支援”を行うことで、「計画の実効性を高める」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 益子焼需要開拓事業

実施主体：益子町商工会

実施時期：陶〜く得キャンペーン（平成28年10月8日～11月27日開催）

〃：益子陶器市（平成28年4月29日～5月5日・11月3日～7日開催）

目 的：益子焼の販路開拓とPR。益子焼関連業者の販売促進と店舗への誘導

支援対象：参加者を対象に陶〜く得キャンペーン事業のチラシによる広報を実施。

支援内容：1万枚配布。参加事業者の販路開拓につながるキャンペーン店舗PRや新商品情報等の掲載支援。

② わくわく系の店づくり事業・スローライフ事業

わくわく系の店づくり：以前は、提唱者のセミナーに参加するのみとなっていたが、職員が実践店を巡回しPOPの効果的な書き方等を指導。また、当店の商品を「なぜこの店で購入しなければいけないのか」といったお客様の問いかけに応えられるアピールポイントの掘り起し等、売上に直結する具体的支援を行う。

スローライフ事業：地元の安心安全な食材を使った「ここでしか食べられない味」を提供。食育を実施しながら地元の良さを知ってもらい、地元飲食店の売上に結び付けてゆく。

(2) 今年度の目標及び実績等

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 「陶〜く得キャンペーン」出店事業者数	52 者	50 者	96.2%
② 「ワクワク系の店づくり」掲載事業者数	6 者	6 者	100.0%
③ 「スローライフ推進事業」ガイドブック掲載事業者数	7 者	6 者	85.7%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらか	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

経営分析・事業計画セミナー参加者に於いては、陶〜く得キャンペーンチラシに各店舗の紹介や新商品情報を掲載、スローライフ事業では、自社のPRの場として各事業所を一般に周知できた。ワクワク系の店づくりでは、参加店への巡回訪問にて指導助言し、その中での成功事例は他店への模範としてアドバイスに活用した。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に適切か？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらか	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

<input type="checkbox"/>	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

実施した事業は何年も継続して取り組んできたもので実績も出ていると思われる。スローライフの登録店舗は前年比で減少したが県内では多い方であり、魅力的な飲食店等を見つけ推進すべき。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定

B

A：目標を達成することができた。（100%以上）

B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）

C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）

D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）		29年度	今年度比
① 「陶～得キャンペーン」出店事業者数			54 回	+ 2 回
② 「ワクワク系の店づくり事業」実践事業者数			7 回	+ 1 回
③ 「スローライフ推進事業」ガイドブック掲載事業者数			7 回	±0 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

ワクワク系の店づくり等の事業に取り組んだ店舗の成功事例を商工会のホームページで公開してみてもは。また、おすすめ商品を全国商工会連合会の「ニッポンセレクト」に登録してみてもは。

7. 地域経済の活性化に資する取組み

商工会を始め益子町・観光協会・栃木県工業振興課・益子焼協同組合・益子焼販売店協同組合・益子焼伝統工芸士会の7団体の連携により、「益子焼関係団体振興協議会」を平成23年設立。益子焼等に関する地域経済活性化の方向性等を検討し観光と合わせて活性化に必要な事業を実施する。また、地域商店街へのにぎわい創出を目指した「商工会街づくり推進委員会」主導による「景観整備、花いっぱい運動、益子雛めぐり事業、土祭への参加、各商店街の地域経済活性化を図る。また、益子町の支援のもと販売促進・地元購買率の向上を図るためにプレミアム商品券の発行や地域通貨の取り扱いを行っている。また、デマンド交通運行による高齢者支援を実施し地元商店街の商業・サービス業者等への誘客を図る事業も実施している。

(1) 実施した事業内容

① 「益子焼関係団体振興協議会」の開催

毎月1回年12回開催、益子焼関係7団体の代表者・担当者により各団体が開催する事業の状況について情報交換を行い、観光客の誘客事業を始め、益子焼の販路開拓事業を実施。具体例：「活力ある伝統工芸品産業づくり支援事業」「新原土を活用した新商品開発事業」「販路開拓・PR事業」「人材確保・後継者育成事業」

② 街づくり推進委員会事業及び地域経済活性化事業の実施

推進委員会は、商店街のにぎわい創出を図る事業の実施として、花いっぱい運動6月・12月の年2回、益子の雛めぐり事業共催（2月）販売促進等を図る各種セミナーの開催（10月）、ましこTOYBOX12月（商工会青年部主催）開催協力、商工会では、益子町の支援を受けプレミアム商品券の発行（7月）1億1千万円、地域通貨取り扱い等は、地元商店でしか使えない商品券であるために、地元購買率向上に貢献、またデマンド交通の運営を行い高齢者支援に地元商店への足となる事業を実施している。

(2) 今年度の目標及び実績等

項目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）		
項目	目標	実績	達成率
① 出店者数（益子の雛めぐり）	85人	87人	102.4%
② 来場者数（益子の雛めぐり）	10000人	12200人	122.0%
③ 利用者数（デマンド交通事業）	14000人	12700人	90.7%
④ 出店者数（益子陶器市）	500人	500人	100.0%
⑤ 来場者数（益子陶器市）	580000人	620000人	106.9%
⑥ 加盟店数（ましこの新そば祭り）	12店	12店	100.0%
⑦ 出店者数（ましこTOYBOX）	22人	17人	77.3%
⑧ 来場者数（ましこTOYBOX）	2000人	2000人	100.0%
⑨ 参加者数（ましこの炎まつり）	200人	171人	85.5%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

益子焼関係団体振興協議会は、月に1回開催され益子焼販路開拓事業の実施や観光客の誘客事業等を関係団体が協力し実施している。販路開拓事業では、ニューヨークで益子焼展示商談会を実施、商工会会員の窯業部会員から20企業参加した。
益子の陶器市は、観光協会、町、商工会等で実行委員会を組織し開催。今年度、春、秋の陶器市来場者は前年を超える62万人の来場者となった。TOYBOXは、商工会青年部主催にて農商工連携・B級グルメ販売促進や普及を目的に前年同様の来場者があった。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？ 妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？ 効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

概ね目標に対し実績は達成している。「ましこの炎まつり」については今年度で終了することが決定しており、新たな切り口の事業を模索、検討すべき。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判定

B

- A：目標を達成することができた。（100%以上）
- B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）
- C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）
- D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 出店者数 (益子の雛めぐり)	85 人	±0 人
② 来場者数 (益子の雛めぐり)	10000 人	±0 人
③ 利用者数 (デマンド交通事業)	14000 人	±0 人
④ 出店者数 (益子陶器市)	550 人	+ 50 人
⑤ 来場者数 (益子陶器市)	600000 人	+ 20000 人
⑥ 加盟店数 (ましこの新そば祭り)	14 店	+ 2 店
⑦ 出店者数 (ましこTOYBOX)	22 人	±0 人
⑧ 来場者数 (ましこTOYBOX)	2300 人	+ 300 人

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し (改善等)

益子焼に関し、仕事としてではなく趣味、体験として興味を持つ層を広げる試みをしては。スカイツリーのとちまるショップ等で体験コーナーを設けたり外国人観光客への対応等、改善策は色々あると思われる。

8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記 I. 経営発達支援事業の内容で掲げる 6 つの事業 (= 経営発達支援事業) が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組む。

事業を推進する職員が、他商工会の職員や支援機関と、支援事例や支援ノウハウ、事業者の現状、課題等について情報交換を行う。

また、役員は、他商工会の役員と、支援体制や商工会の現状と課題等について情報交換を行う。

(1) 実施した内容

- ① 職員協議会第 4 支部に所属する 5 商工会の職員同士の情報交換
- ② 第 4 ブロック商工連絡会議にての情報交換
- ③ 県連が開催する各種セミナーでの情報交換
- ④ マル経協議会での情報交換
- ⑤ 地域内金融機関との情報交換

(2) 今年度実績に対する内部評価

5 段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

職員同士の繋がりを強化情報交換の機会を支援事例などについて積極的に意見交換がなされた。

【5 段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5 段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性 (5 項目から 1 つを選択し○を、理由に☑を入れる)

拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
○ 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

内部評価通りが妥当と思われる。そのうえでカテゴリー1～7でB評価の所を改善していく。

(4) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
- B : 目標を概ね達成することができた。(80%～99%)
- C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%～79%)
- D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(5) 次年度への見直し(改善等)

他の商工会の事例を参考に改善すべき。

9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記I. 経営発達支援事業の内容で掲げる6つの事業(＝経営発達支援事業)が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組む。事業を推進する職員の研修派遣、OJT、勉強会開催により資質向上を図る。

(1) 実施した内容

- ① 県連が開催する職種別セミナーへの参加
- ② 中小企業大学校への職員派遣
- ③ セルフアセッサーセミナーへの参加
- ④ 内部勉強会の開催
- ⑤ OJTの実施(先輩職員や専門家に同行し支援を行う)
- ⑥ 事業推進連絡会議への参加

(2) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

経営指導員等の資質向上を目的に商工連が開催する経営指導員、経営支援員セミナーや中小企業大学校への派遣を行った。経営指導員は、経営発達支援計画を実施する上で会員企業に支援できる必要な知識を得るために経営計画や経営分析等内部職員研修を実施した。また、県連が開催する事業推進連絡会議にも積極的に参加した。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性(5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる)

<input type="checkbox"/>	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="radio"/>	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

内部評価通りが妥当と思われる。そのうえでカテゴリー1～7でB評価の所を改善していく。

(4) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえて、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
- B : 目標を概ね達成することができた。(80%～99%)
- C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%～79%)
- D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(5) 次年度への見直し(改善等)

経営支援員向けのセミナー等をもっと拡充すべきでは。

10. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記I. 経営発達支援事業の内容で掲げる6つの事業(=経営発達支援事業)が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組む。当商工会組織としての支援ノウハウの共有及び蓄積を行う。

(1) 実施した内容

① 支援ノウハウの組織的な蓄積

(2) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

職員全員で取り組むべき事業であると認識しているが、協力体制や情報の共有の仕方について不十分な部分があった。次年度以降経営指導員会議や経営支援員会議等に於いて情報の共有、事例等の検証を行っていききたい。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性(5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる)	
<input type="checkbox"/> 拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し <input type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止休止	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="radio"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input checked="" type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他

内部評価通りが妥当と思われる。そのうえでカテゴリー1～7でB評価の所を改善していく。

(4) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(5) 次年度への見直し(改善等)

支援ノウハウ蓄積の仕組みづくりが必要と思われる。

1.1. 施策利用状況等(その他取組み状況)

(1) 今年度の実績

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	実績	前年度
①持続化補助金申請件数	15 件	10 件
(うち、採択件数)	9 件	8 件
②経営改善資金(マル経)利用件数	5 件	2 件
③経営発達支援資金利用件数	0 件	0 件
④小規模事業者に対する巡回訪問件数	2068 件	2321 件
⑤小規模事業者数	891 者	891 者
(うち、会員小規模事業者数)	583 者	568 者

(2) 今年度の実績に対する内部の評価

借り入れ希望者は、全体的に少なく、又、町振興資金(全額利子補給を5年間実施)の利用者がほとんどで、そのためにマル経認知度が低くなりつつある。本年度もマル経資金利用者は少ない。今後はマル経利用有利性をPRし認知度UPを図りたい。持続化補助金利用者は、年々増加し認知されつつある。特に経営計画、経営分析セミナー参加者にも利用され、申請者も事業計画や経営分析を含め理解した上で持続化補助金の申請となるため採択者も増えてきている。

(3) 今年度の実績に対する検討委員会の評価(意見等)

内部評価通りが妥当と思われる。

(4) 次年度に向けた見直し(改善等)

持続化補助金の高採択率等、他の商工会より良い点は伸ばし、逆に他の商工会の優れている点等は積極的に取り入れていくべき。